

榛名林間学園及び八ヶ岳荘の食事料金改定について

社会的な物価上昇により、榛名林間学園及び八ヶ岳荘において提供している食事の仕入れ価格が大幅に上昇していることから、社会教育施設として良質な食事を低廉かつ安定的に提供するため、令和5年度より下記のとおり食事料金を改定する。

1 経緯

食材の仕入れ価格高騰に対しては、これまでも使用する食材の切り替えや指定管理者の企業努力により対応してきたが、昨今の物価上昇は、資源価格の上昇や為替変動（円安）により、これまでにない品目となっており、企業努力で対応できる範疇を超えている。

そのため、両施設を運営する指定管理事業者より、令和5年度より食事料金の改定（値上げ）について申し入れがあり、検討を重ねた結果、社会的な背景からやむを得ない状況であると判断し、下記金額を上限に申し入れを受け入れることとした。

2 改定料金（価格は税込み）

改定金額の根拠は、令和3年度と令和4年度の食材仕入れ価格比較や、今後の食品メーカーの価格動向予想等から調整した。

（1）榛名林間学園

| 区分 | 朝食 | | 昼食 | | 弁当（昼食） | | 夕食 | | 子ども夕食 | |
|-------|---------|------|--------|------|--------|------|--------|--------|-------|------|
| | 現料金 | 新料金 | 現料金 | 新料金 | 現料金 | 新料金 | 現料金 | 新料金 | 現料金 | 新料金 |
| 一般・青健 | 550円 | 610円 | 660円 | 730円 | 648円 | 712円 | 1,210円 | 1,320円 | 880円 | 960円 |
| | 朝食（ごはん） | | 朝食（パン） | | 昼食 | | 夕食 | | 牛乳 | |
| 移動教室 | 506円 | 561円 | 484円 | 539円 | 604円 | 658円 | 792円 | 847円 | 85円 | 95円 |

※青健団体は移動教室献立も選択可能。

（2）八ヶ岳荘

【通常メニュー】

| 区分 | 朝食 | | 昼食 | | 弁当（昼食） | | 夕食 | | 子ども夕食 | |
|-------|------|------|------|------|--------|------|--------|--------|-------|--------|
| | 現料金 | 新料金 | 現料金 | 新料金 | 現料金 | 新料金 | 現料金 | 新料金 | 現料金 | 新料金 |
| 一般 | 550円 | 630円 | 660円 | 770円 | 660円 | 770円 | 1,320円 | 1,520円 | 880円 | 1,000円 |
| 移動教室 | 528円 | 600円 | 660円 | 770円 | 660円 | 770円 | 814円 | 940円 | — | — |
| 青健等団体 | ※ | ※ | 660円 | 770円 | 660円 | 770円 | ※ | ※ | ※ | ※ |

※青健等団体の夕食と朝食は一般または移動教室の選択制。

【八ヶ岳荘の移動教室および青健等団体に提供する野外炊飯食材および軽飲食】

| 区分 | メニュー | 現料金 | 新料金 |
|--------|------------|-------|-------|
| 野外炊飯食材 | カレーライス | 496 円 | 570 円 |
| | 焼きそば | 496 円 | 570 円 |
| | 豚汁 | 443 円 | 510 円 |
| | 米（150 g） | 86 円 | 90 円 |
| 軽飲食 | 紙パック飲料各種 | 108 円 | 120 円 |
| | ペットボトル飲料各種 | 130 円 | 150 円 |
| | あんパン・ジャムパン | 130 円 | 150 円 |
| | アイスクリーム | 150 円 | 160 円 |
| | かき氷 | 140 円 | 150 円 |

3 改定日

令和 5 年 4 月 1 日（周知は令和 5 年 4 月の施設予約に合わせ令和 4 年 12 月中旬より行う。）

4 参考

【主要食材の価格状況】

| 品目 | 上昇率（令和 3 年度比） |
|------|---------------|
| 小麦粉 | 12～18% |
| パン | 4～14%（平均 10%） |
| 食用油 | 18～28% |
| 冷凍食品 | 5～15% |
| 醤油 | 4～9% |
| コーヒー | 10～20% |
| 包装資材 | 10～15% |

【食品メーカーの値上げ要因】

- ・原油価格の高騰による設備維持管理コスト輸送コスト、梱包資材費などが上昇している。
- ・コロナ渦により生産工場の稼働率が低下した。
- ・為替レートにおける慢性的かつ継続的な円安。

【今後の見通し】

- ・食料自給自足率の低い日本は食材全般に渡り輸入に頼っており、今後も輸送コストの上昇分が価格に転嫁されることは避けられない。
- ・過去の例から見ても一度上がった食材価格は簡単には下方修正されない。下方修正されるのは日本国内で生産されている生鮮品（野菜、米）程度と思われる。
- ・ロシアのウクライナ侵攻による影響が継続する可能性が高い。